



自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～

NO. 2 令和5年6月15日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

天気や自然の移り変わりに、季節の変化を感じるこの時期。気候の変化はありますが、子どもたちは、雨でも晴れでも変わらず元気いっぱい、泡遊びや泥あそび、お店やさんごっこに虫探しや虫のお世話など、毎日楽しく過ごしています。

今月のさくらんぼは、この頃の園の様子と5月末から行いました保育参加・土曜保育についてお伝えします。



がんばれツマグロヒョウモン！（風組）

梅雨に入り、室内で過ごす日も多くなってきましたが、元気いっぱいの風組さんです。雨の日には製作やごっこ遊びに加え、サーキットで体を動かしたり、星組さんが遊戯室でやっている、しっぽとりに入れてもらって一緒に遊んだりしています。星組さんが少し手加減をしてくれたり、次にどうするか優しく教えてくれたりする姿も多く見られ、風組の子どもたちも一緒に楽しく遊ぶことができます。

風組2の保育室前には、子どもたちが日々見つけ、捕まえた生き物たちがたくさん並んでいます。ダンゴムシ、トカゲ、カナヘビ、カタツムリ、ツマグロヒョウモン、オタマジャクシ、テントウムシ…。毎朝、登園するとすぐに「今日の様子はどうか。」と生き物たちの様子を確認する子どもたちがたくさんいます。あまり生き物が得意でない子どもも、トカゲやカナヘビの餌であるクモを見つけると、「ここに、クモがいるよー！！」と大きな声で教え合う姿も見られ、風組の生活に生き物がとても身近になっています。

先日、飼っているツマグロヒョウモンの幼虫がサナギになる瞬間を保育者が撮影することに成功し、みんなで見ることにしました。背中が割れて脱皮が始まると、「なんだか服を脱いでいるみたいだね。」と子どもたち。体を動かしながら一生懸命黒い服を脱いでいくツマグロヒョウモンに、子どもたちは食い入るように画面を見つめ、「がんばれー！がんばれー！」と応援していました。最後にポイッと黒い服を脱ぎ捨て、見事サナギになる準備ができたツマグロヒョウモンに「おめでとう！」「すごいね！」と子どもたちも保育者たちもみんなで大拍手。生き物の成長を間近に見ることができ、とても貴重な時間となりました。



新年度が始まってから2ヶ月が経ち、風組はクラス関係なく、進級・新入児が入り交じって遊び、楽しそうな場があると次々に子どもが加わるようになってきています。好きなことが同じ友達と一緒に楽しむ中で、さらに友達のことが大好きになり、時にはぶつかり合いながら、子どもたちは大きく成長しています。子どもたちの思いに寄り添い、支えていきたいと思います。（田中）

思いを伝え合う中で（星組）

登園すると、友達と誘い合いながら遊びに向かう姿が多く見られるようになりました。大型ブロックや箱積み木を拠点にしたおうちごっこ、自分たちで作った色水を使って開くジュース屋さんやくしやさんなどのお店、しっぽとりなど友達と関わりながら自分たちで遊びを進めていこうとしています。その中で、子どもたちは互いに思いを言ったり、聞いたりしているのですが、言い合いがヒートアップすることもしばしば。思いを伝え合っていることは肯定的に捉えながらも、どのように相手に伝えたらよいのか、望ましい言い方をその都度子どもたちと一緒に考えるようにしています。

先日、しっぽとりをしている中でAちゃんとBちゃんの言い合いが起きました。顔を真っ赤にして怒り、今にも手が出そうな勢いのAくんでしたが、一緒にしっぽとりをしていたCくんがすかさず間に入って「そんなに怒らないで」と両手を広げて制止していました。Cくんが「どうしたの？」と話を聞くことで、次第にAくんの怒りも和らぎ、落ち着いてBちゃんと話をすることができました。そんなAくんが今度は別の場面でDちゃんとEちゃんの言い合いの場面に関わっていました。「どうしたん？」と互いの言い分を聞いた上で「Aくん見ただけ分かるよ、Eちゃん〇〇してほしかったってことやろ？」と相手の気持ちを考えながら話をする姿にとっても驚きました。うなずくEちゃんに「やっぱりそうか～」と納得したようにうなずくAくん。その顔は真剣です。そんな風に友達のために真剣になれること、気持ちを想像しながら話を聞けること、すごく素敵だなと思います。聞いてもらった嬉しさや安心感が心のどこかに残っていてこうしてつながって広がっていくのだなあと思う出来事でした。このように子どもたち同士で思いを聞き合う姿が見られるようになってきていますが、まだまだ激しく思いを言い争ったり、逆に争いを避けて自分の思いをしまい込んだりすることも時にはあります。思いを伝え合うからこそそのよさを、引き続き場面を捉えて伝えていきたいと思います。（中野祐）



3年ぶりの保育参加、ありがとうございました。

5月下旬には保育参加、6月10日には土曜保育日を行い、たくさんの保護者の方々に参加していただきました。お忙しい中、ご協力いただきまして本当にありがとうございました。3年ぶりに保育参加を再開し、今までの参観



のイメージも残る中、どのような保育参加になるかとドキドキしていましたが、そんなことは杞憂でした。保護者の皆様は、子どもたちの遊びに丁寧に寄り添い、一緒に笑ったり喜んだり、時には励ましたりしながら、温かく子どもたちを受け止めてくださいました。保育参加が終わると、どのクラスからも「明日は誰のお母さんが来るの？」「もっと遊びたかった。」といった声がたくさん聞こえてきたようです。子どもたちも自分のおうちの人と一緒に遊べた満足感だけでなく、周りの友達のお母さん、お父さんとも触れ合う機会になり、いろんな人が自分のことを見てくれる安心や嬉しさも感じられたのではないかと思います。また、参加後のミーティングでは、心温まるお言葉をたくさんいただきました。一部を紹介させていただきます。

「参観よりも実際に子どもの遊びに参加することで、子どもたちも構えることなく日頃の姿を出しながら遊んでいました。そのような姿を見られて一緒に関わることができて嬉しかったです。」
「一人一人やりたいことが違うんですね。大人がその違いを否定せずに受け入れながら遊びを進めることが大切だと感じました。」
「家では“誰と遊んだの？”と聞くと“誰とも遊んでない”と言われるのでどうなのかな？と思っていたら、たくさん遊んでいるじゃない！と安心しました。友達と一緒に…と思う気持ちもありますが、それはこちらの思いであって、子どもなりの思いで楽しんでいるんですね。誰とではなく、“楽しかった？”でいいんだなと思いました。」
「去年との違いを感じました。前は“～して。”だけだったのが、“～したいから～してほしい。”と自分の思いを言葉で表現できるようになっていて、友達とのやり取りも言葉が増えているなと思いました。」
「花組の時にできていた“ごめんね”－“いいよ”が、風組ではすぐに“いいよ”と言えなくなっているんですね。きっと、自分の思いがしっかりとあるってことなんだろうね。」
「5歳になると自分たちで遊びを考えたり友達同士で誘い合ったりして遊ぶようになるんですね。3、4、5歳とどのタイミングでこんな風に成長していくのかなと思いました。」

2時間という限られた時間の中でも、こんなにもたくさんのことを考えてくださいました。こうやっていろいろな視点からの気づきを共有していくことで、私たちも保護者の皆様も子どもを見る目が磨かれて温かなものになっていくのだと思います。今回見ていただいた子どもたちの姿はどれも本当の姿ですが、それはほんの一部であり、全てではありません。子どもたちは嬉しいことや時には嫌なことにも出会いながら気づいたり考えたりして、一歩ずつ大きくなっていきます。その成長を長い目で見ていただきながら、幼稚園での子どもたちを温かく見守り支えてくださいますと幸いです。

（雨谷）